ここごみ日和

京都発！ごみ減量情報誌

89号

廃棄繊維を色ごとに分けてアップサイクル
株式会社カラーループ

サステイナブルな消費の在り方
生活クラブ京都エル・コープ

マイボトルの活用でお金も資源も節約！
学生レポート

なごみ日和
「夏の京都のコンチキチン」

もっぺん物語「上手楽器」

模範的な資源物回収のかたち
格致ごみ減量推進会議

表紙デザイン
嵯峨美術大学 デザイン学科3年
稲堂丸 怜菜

この **数字** なあに？

90 本から 45 本に

答えは web へ！

＊トップページ「よもやま話 ごみ減のごみ袋」をご覧ください。

京都市ごみ減量推進会議

特集

廃棄繊維を色ごとに分けてアップサイクル

捨てられた服に新たな価値と需要を

株式会社カラーループ

近年、見聞きする機会が多くなった「アップサイクル」という言葉。廃棄物や要らなくなったモノに新たなアイディアや工夫を加え、より価値のあるモノに生まれ変わらせることをいう。古くなったトラックの幌（ほろ）やビニール傘、コーヒーかす、規格外の花、パソコンなどの電子廃棄物…等々、アップサイクルの取組はさまざまな業界に広がっている。そんな中、素材の分別が難しいとされてきた廃棄繊維のアップサイクルに注目が集まっている。今回は、色をベースに繊維をリサイクルする新しい循環システムを開発した、株式会社カラーループ代表の内丸もと子さんにお話を伺った。

年 200 万トンの繊維が捨てられる現状※

昨今、流行の服が安価で手に入るようになった。しかし、その裏で余った衣料や原材料の大量廃棄が大きな環境負荷をかけると社会問題になっている。

そもそも廃棄される繊維は、アパレル・繊維業界の長年の課題であった。環境省の調査によると、2020年に国内の家庭や事業所から回収された衣料は約79万トン。その65%にあたる51万トンがそのまま“ごみ”として廃棄（焼却処分）されている。リサイクルされたのは12万トン（15%）だった。2009年は、回収された衣料の70%が廃棄され、リサイクル率は10%なので、約10年の歳月を経ても衣料のリサイクルは進んでいないことがわかる。これらの数値は、あくまで「衣料」の回収実績であり、繊維全体の廃棄量においては氷山の一角と言える。

十数年前、こうした廃棄繊維の現状を知り、胸を痛める人がいた。当時、テキスタイルデザイナーとして、アパレル製品やインテリア用品の繊維素材を企画開発していた内丸もと子さんである。

内丸もと子さん

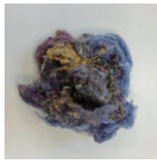
「古着回収業者の倉庫で天井近くまで積み上げられた古着の山を目にした時は、本当にショックでした。私はこれまでごみを作っていたんだろうか。このまま作り続けていていいのかな。そんな心境になりました」と当時を振り返る。長年、繊維素材に携わってきた者の責任として、リサイクルするシステムを作りたいと考えた内丸さんは、デザイナーとして仕事をしながら、京都工芸繊維大学大学院に入学し、繊維リサイクルの研究をすることに。

繊維のリサイクルが進まない理由

ペットボトルやアルミ缶のリサイクルが進む中、繊維のリサイクル率が伸び悩んでいるのはなぜか。その理由として「素材分別の難しさ」が挙げられる。繊維の素材は、綿・麻・絹・ポリエステルなどさまざまで、着心地や機能性を求めて複雑に混紡・混織されているものも多い。しかし、精緻（せいち）に組み合わされた混紡繊維を素材別に分解するのは非常に困難である。また、古着では、タグの褪（あ）せや消失によって素材がわからないことも多々あり、ペットボトルやアルミ缶のような素材分別によるリサイクルは難しい。

とはいえ、回収した衣料の10～15%はリサイクルされている。裁断して工業用ウエス（雑巾）にしたり、反毛という技術でわた状に戻し、断熱材や詰め綿のほか、軍手、災害用毛布などに再商品化されている。しかし、いろんな色の繊維を混ぜて反毛することによってくすんだ濃灰色になるため、その用途が限られる。

「従来のリサイクルは、地味な色のせいか、産業資材として使用されるのが主でした。それなら“色”を使おうと。消費者に好まれる魅力的なものにするためには、色を効果的に使ってアップサイクルするしかないと思いました」。色に着目した内丸さんは、京都工芸繊維大学先端ファイブロ環境工学研究室の木村照夫教授（現在は名誉教授）のもと、「繊維を色分別する」という独自の発想で繊維リサイクルの研究を始めた。それが「カラーリサイクルシステム（以下、CRS）」である。



色分別なしの繊維わた

色分別した繊維わた

故繊維50%使用+生成り綿50%のリサイクル糸

廃棄繊維の可能性を示した新リサイクルシステム 「CRS」

内丸さんが考案した「CRS」とは。廃棄衣料や生産時に出る端材などを赤・黄・緑・デニム系など色で分別して解繊。それを色材としてフェルトや糸などの素材に再生したり、樹脂やパルプを加えることで革や和紙のような質感の新素材を作り出し、文具や雑貨などカラフルなリサイクルプロダクト（製品）を作るというもの。綿やポリエステルなど複数の素材が混ざっている繊維でも再利用ができ、再び回収、色分別することによって循環利用が可能だ。

内丸さんは「混色した際に高い好感度が得られる色の組合せは」、「色わた以外の形状でも同じ色分別基準が適応できるか」、「成形品の表面色と繊維含有率の関係は」といった考察を重ね、試行錯誤の末、５年かかってCRS の技術を確立させた。「誰でも分かるように色相を数値化して目視でも分別できるシステムを構築したことで、さまざまな可能性が拡がった」という。

素材分別が困難でリサイクルが難しいとされてきた廃棄繊維を、内丸さんの「色で分別する」という新しい切り口によって、素材の種類に関わらず再び素材に再生できるシステムが確立できたのだ。そればかりか、リサイクル品の魅力を高めるアップサイクルによって、廃棄繊維の可能性を示した点がこのシステムの優れたところだろう。

新しいリサイクルのかたちに集まる注目

CRSはさまざまな展開を見せ、商品化も広がっている。2015年に、木村照夫名誉教授をプロジェクトリーダーに、内丸さん、成形加工業、故繊維業、素材メーカー、研究機関の研究者など産学官がネットワークを組んで「カラーリサイクルネットワーク」を設立し、素材開発を続けてきた。ネットワークメンバーの企業でマグネットカバーや物差しなどを試作販売し、大阪府認定リサイクル製品に選ばれた。2018年には、CRSのコンセプトに賛同した人気アパレルメーカー「株式会社アーバンリサーチ」がデッドストック衣料をアップサイクルするブランド「コンポスト」を設立。トートバッグやスマホカバーなどの雑貨を展開している。

2019年8月に内丸さんは、大学発ベンチャーとして「株式会社カラーループ」を設立。 新しいリサイクルのかたちとして、CRSの研究成果を広く社会に還元していきたいと考えている。設立後もさまざまな分野からプロジェクトが持ち込まれ、アパレル業界のみならず、大手文具メーカーやインテリア、建築メーカーなどとのコラボレーションの話もあるとか。

廃棄繊維から作られたカラフルな製品の数々。解繊し樹脂を加えることで、革のような質感の新しい素材に生まれ変わった

廃棄される予定だったモノに「魅力」を加え、新たな需要と循環を生み出す内丸さんの取組がどのような発展を遂げていくのか、その動向にこれからも目が離せない。

株式会社カラーループが目指すSDGs

株式会社カラーループ

〒600-8413 京都市下京区烏丸通仏光寺下ル大政所町680-1　第八長谷ビル２F-222
URL：https://www.colourloop.net

藤原幸子（2021年8月3日取材）

※2009年に破棄された故繊維（使用済みの古着、古布、製造工程から発生する裁断くず等）は約200万トンに上る。10年以上経った現在においても、廃棄繊維を巡る問題は全く解決には至っていない。

取材に応じてくれた細谷さん（左）、木下さん（右）

小さな積み重ねが未来を作る

～サステイナブルな消費の在り方～

生活協同組合　生活クラブ京都エル・コープ

生活クラブ京都エル・コープ（以下、エル・コープ）は、組合員が暮らしに必要なものを共同で購入し、わけあう場だ。理事長の細谷さん、理事の木下さんにお話を伺い、エル･コープの様々な取組や、受け継がれている想いを知ることができた。それらは、私を温かい気持ちにしてくれた。

店舗を持たない、無駄のない仕組み

エル・コープは、21都道府県に33ある生活クラブ生協と生活クラブ共済連とで構成される、生活クラブ連合会の一員だ。各生活クラブ生協はそれぞれ組合員の意見を取り入れ、自立した活動を行っている。

エル･コープは、店舗を持たない。だから、売れ残りがない。食品ロス問題の原因のひとつに売れ残り食品がある。店舗型の多くは、営業終了間際でも豊富に商品が並んでいて、常にお客さまのニーズに対応している。しかし、このシステムでは食品ロスが出やすい。売り切れの状態を作らない、ということは商品を多めに用意しておくということ。消費（賞味）期限内に売れなかった分は、廃棄することになる。

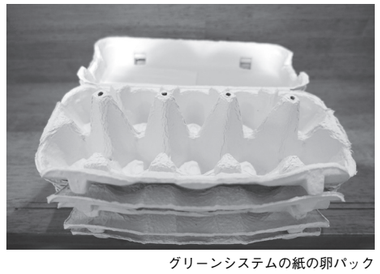
エル・コープは、組合員が事前に注文・予約をするシステムなので、過剰発注による売れ残りはない。さらに、豚肉の一頭買いも特徴的だ。契約した豚は、全ての部位を責任をもって共同購入する。

生活の一部になるグリーンシステム

グリーンシステムも他にはあまりない取組だ。家庭から出るごみの約60％は容器や包材だと言われている。グリーンシステムは、商品の容器などをリユースするシステムだ。例えば、牛乳びんは洗って回収してもらう。マヨネーズやケチャップのびん容器、紙の卵ケースも同様に回収している。

リユースびん

「環境に良いことをしなきゃ、と構える必要はない」と細谷さん。「洗って置いておくだけ。それだけで、最終的に環境に良いことができる仕組み」と木下さん。どうしても、環境に良いこと、ごみを減らす工夫、というと頑張り続けるイメージがある。しかし、無理をすると絶対に続かない。生活の中の当たり前になると自然と続いていく。これこそが、サステイナブル※1だと思った。



グリーンシステムの紙の卵パック

生産者と一緒につくる、納得できる消費材

エル・コープの消費材※2は生産者の顔が見えやすい。細谷さんは、リンゴ農園の見学ツアーを企画したことがあるそうだ。エル･コープでは、リンゴが実る前にケース単位で契約を結ぶ。「これだけ買うから、美味しいリンゴをお願いします」というように。ツアーでは、リンゴ農家の方との座談会も行った。生産者と消費者が対等の立場で、本当に納得のいくものづくりができるのも印象的だった。実際に食卓でリンゴを目にすると、同時に農家さんの顔も浮かぶそうだ。

生活クラブはつながりも大切にしている。人と人のつながり。地域のつながり。自然とのつながり。同じ想いを持った人同士がつながり合って、より良い暮らしを目指している。個人レベルから、家庭レベル、社会レベルへと、環を大きくしていくことができる。

感染症対策を講じながらのもり部ミーティング

自然への畏敬の念を忘れないで欲しい

エル・コープのもり部※3の活動では、生ごみコンポストのイベントを行っている。親子で参加でき、おうちで取り組めるこの活動は、コロナ禍の中でも好評だった。コンポストの素材にもこだわっている。京都市内の社寺等で、落ち葉のたい肥化に取り組んでいる「京（みやこ）の杜プロジェクト」の協力を得て、落ち葉たい肥をコンポストの土（基材）として活用。地域内循環を大切にし、米ぬかやもみがらくん炭も京都産だ。フェルト生地のバッグは、見た目の可愛さも大切にした。生ごみコンポストは決して難しくはない。家から出る生ごみを入れてかき混ぜるだけ。とてもシンプルなのに、コンポストの中で形成される世界は奥深い。

「土が愛おしくなって、最近はコンポストの中の虫も可愛い」と木下さん。育てている感覚になるそう。面白いのは、分解されるものとされないものがはっきりと分かれること。試しに入れてみたプラスチックや化学繊維などは、どれだけ小さな破片でも分解されずにずっと残っている。自然の循環を実感する瞬間だそうだ。

「地球を守ろう」と標語で言われることも多いけど、「人は生かせてもらっている。そんな自然への畏敬の念を忘れないでいたい」と細谷さん。

もり部のイベントにて。神社の境内で、落ち葉を集める様子

生ごみコンポストの作業の様子

サステイナブルであることが一番大切

最後におふたりからメッセージを貰った。

細谷さん「ごみを減らす取組、環境に良い取組など、立派な取組はたくさんあるけれど、続けることが一番大事。生活の一部に取り入れて、手軽にちょっとずつでも実践を続けていきたい。」

木下さん「一度に全部が解決しなくても、自分の取組が見える、分かる仕組みが生活クラブ。人は循環の中で生きている。それを実感することが、暮らしを変えるきっかけになるかもしれない。」

私たちは、環境に良い行動を知っている。今の暮らしは、どこかにしわ寄せが出ていることにも実は気が付いている。でも、今の便利な生活を手放すのは嫌だし、独りで環境に良い暮らしを続けるのは疲れる。

だから、頑張らなくてもいい。一歩ずつ、習慣にしていくこと。同じ想いを持った人とつながることで、社会はほんの少しずつ変わっていくのかもしれない。

※1…持続可能という意味。生活クラブのスローガンは、「サステイナブルなひと、生活クラブ」。このスローガンになったのは2015年で、世の中で今ほど「サステイナブル」という言葉が使われる前のこと。

※2…「商品」というと、単にお金で買う物、利潤追求が目的という印象がある。生活クラブでは、使う人の立場にたった材であるという思いをこめて「消費材」と呼んでいる。

※3…エル・コープの委員会のひとつ。自分たちの暮らしと自然とのつながりを感じ、森の循環と同じサステイナブルな暮らし方を台所から考えながら、森の落ち葉たい肥で生ごみコンポストを実践する活動を行っている。

生活協同組合　生活クラブ京都エル・コープ　https://kyoto.seikatsuclub.coop/
本部▶〒601-8212 京都市南区久世上久世町161　TEL：0120-608-833

岸　さゆり（2021年８月12日取材）

Hand in Hand

マイボトルの活用でお金も資源も節約！

いつでも飲み物を飲むことができるマイボトルが、近年では節約やエコ視点で注目されている。マイボトルを持って行くと、容器代として割引サービスを受けることができる店が増えている。そこで、マイボトル持参で実際に安くなるのか調査した。

現在、マイボトル持参で割引サービスを受けられる店舗の一覧が右下の表の通りである。今回はその中で２つの店舗について取り上げる。

まずはマイボトルの購入から始めた。マイボトルは安いものでは100円ショップで手に入り、高機能や素材によって5,000円を超えるなど、幅広い価格帯で販売されている。今回はお得さ重視ということで100円ショップのタンブラー（320㎖）を購入した。

１店舗目は、大手コーヒーチェーン店のスターバックスコーヒーである。スターバックスコーヒーでは専用のタンブラーが販売されているが、持参したタンブラーでも快く応じてくれた。コーヒー以外の紅茶やフラペチーノでも対応可能であり、容器代の値引額が20円だった。今回は320㎖のタンブラーだったため、ショートサイズのフラペチーノを頼んだが、一般的なトールサイズやそれ以上のサイズを飲む場合は大きいサイズのボトルを持参すると良い。ここでは、ドリンクを入れる前にタンブラーを洗浄してくれた。

２店舗目はコンビニチェーンのローソンである。安くて美味しいコンビニコーヒーが近年急速に普及しているため、利用している人も多いだろう。ここではアイスカフェラテを購入した。レジでタンブラー持参を伝えると販売価格の170円から10円を引いてくれた。会計後、タンブラーを預け、氷を入れてもらい、機械から出るカフェラテを自分で入れた。機械は、各店舗で提供されるカップのサイズに設定されているため、その高さに収まるタンブラーが必要であることがわかった。

ローソン以外のコンビニでもマイボトルが利用できるかどうか、実際に京都と滋賀にあるセブンイレブンとファミリーマート、各１店舗ずつに話を聞いた。残念ながら４店舗とも「対応できない」と言われたが、他の利用者からは、店舗によっては対応してくれるところもあるという情報を得た。ぜひ近くのコンビニでもチャレンジしてほしい。

以上の調査からマイボトルを利用できる店舗とそうでない店舗があり、またそれぞれで割引額が異なることがわかった。また、すべての店舗がボトルの洗浄を行ってくれるわけではないため、あらかじめ洗浄した上での利用をオススメしたい。マイボトル持参で容器のごみを発生させずに、いつものコーヒーをお得に飲むことができるので、多くの人がマイボトルを活用して少しでも資源の節約に取り組んでもらえたらいいな、と考える。

マイボトル割引可否一覧

店舗	割引額
スターバックスコーヒー	20 円
タリーズコーヒー	30 円
上島珈琲	50 円
シアトルズベストコーヒー	20 円
エクセルシオール・カフェ	20 円
カフェ・ド・クリエ	30 円
ドトールコーヒー	なし
ローソン	10 円
セブンイレブン	なし
ファミリーマート	なし

参照：京都市マイボトル推奨店、筆者作成。2021年8月末現在

北本ゆりあ（京都光華女子大学キャリア形成学部）
（2021年７月31日～９月８日調査）

なごみ日和

KBS 京都 アナウンサー
海平（うみひら）　和（なごみ）

●●第31回　「夏の京都のコンチキチン」●●

コンチキチン♪祇園囃子が聞こえてくると、京都の夏だなぁと感じます。ですが、去年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で祇園祭は縮小。神事ごとなどは行われたものの、山鉾巡行や神輿渡御（みこしとぎょ）は中止となり、山鉾建ても行われず京都の町にお囃子が聞こえることはありませんでした。そして今年、去年と同じく山鉾巡行はできなかったものの、伝統技術の継承のため半数の山鉾が建てられました。その姿に自然と涙が出てきたと話す方も多かったです。

７月17日と24日には、山鉾巡行に代わり代表者の皆さんが歩いて御旅所まで巡行されました。前祭の17日の朝、出発地の四条烏丸には、空高く、太陽の光を浴びて輝く長刀鉾（なぎなたほこ）の鉾頭。そしてお囃子の音色と共に見送られる鉾町の皆さん。鉾が一緒に動くことはありませんでしたが、ぐっとくるものがありました。公益財団法人祇園祭山鉾連合会の木村幾次郎理事長は、「やっぱり綺麗だなぁ。嬉しい。来年こそ、例年通り皆さんに見て頂けるようなお祭りにしたい」と優しい笑顔に希望が込められていました。

また、今年は長刀鉾の屋根を飾る木彫品の金箔を貼り直すなどの修復が行われました。使われたのは、京都市民から回収された携帯電話やカメラなど小型家電約１トン分からリサイクルされた金です。伝統を継承し、守るため、人が繋いでいく技術などはもちろん、こういった資源の循環利用も大切なことですね。様々なことを感じさせられた今年の京都の夏も終わり。来年こそ、賑やかな風情が戻っていますように。

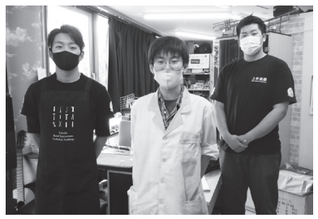
海平　和：京都市出身、2010 年 KBS 京都入社。テレビ「京スポ」「news フェイス」、ラジオ「妹尾和夫のパラダイス Kyoto」などに出演中。

人と物と。織りなす「もっぺん」物語　第18回

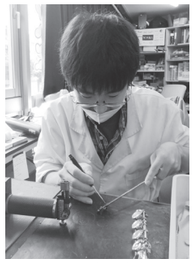
管楽器奏者の強い味方「上手（かみて）楽器」

北野天満宮近くに店を構える上手楽器の歴史は、半世紀を超える。リペアマン（修理技術者）が常駐する、京都でも数少ない楽器店だ。２階の修理コーナーでは、リペアマンの西部佑一（にしべ）さんが、細かな部品の一つ一つを真剣な眼差しで点検していた。

上手楽器では、プロ奏者の楽器メンテナンスから、学校等の吹奏楽部の出張修理まで、幅広く受け入れている。学校での出張修理は、できるだけ生徒に修理の様子を見てもらい、一緒に仕上がり具合を確認する。「今まで音を出すのに苦労していたのに、少しの調整で楽器の吹きやすさ、音の伸びが全然違う！」。生徒たちからの「ありがとう」が、長時間に及ぶ修理作業の疲れを吹き飛ばす。



左から、上手優人さん、西部佑一さん、営業担当の上手凌弥さん。



フルートの部品交換の様子

「楽器を演奏することは、楽器を育てることと同じです。例えば、ペットに毎日えさをあげ、毛づくろいをし、体調に変化があれば病院に連れていく。それと同じで、楽器にも日々お手入れが必要です。僕らは、そのお手伝いをしたいんです」。こう話すのは、上手優人さん。創業者、上手稔さんの孫であり、彼もリペアマンだ。繊細で精密な構造の管楽器は、突然音が鳴らなくなることもあり、親身になって修理してくれる彼らはとても頼もしい存在だ。

初めて楽器を購入する際も、奏者の年齢やどれくらい楽器を続けたいかという希望にぴったり合う楽器を提案してくれる。演奏を続ける中で、「少しでも楽器に違和感があれば気軽に相談してほしい」と優人さん。

「奏者の一番近くに寄り添う楽器屋」を目指し、若きリペアマンたちの奮闘は続く。

▶**上手楽器　〒602-8387　京都市上京区東今小路町744-5　電話：075-467-8666**
E-mail：kamitegakki722 @gmail.com　HP：https://www.kamite-g.com/　定休日：月曜日

松村香代子（2021年8月10日取材）

地域活動レポート ～格致ごみ減量推進会議～

模範的な資源物回収のかたち 地域の力で実行中

使い終えた容器類を「ごみ」として捨てずに「資源」ととらえ、分別しリサイクルに回すのは、ごみ減量の基本中の基本。

「熱心に資源物回収に取り組む団体があるよ」との情報を得て、現場へ直行しました。

左より村田モリエさん、河添順子さん、竹村廣子会長、夏原節子前会長、児玉三千子さん

並んだ５種類の回収ボックス

一升びんの回収

蛍光管を持参しボックスに入れる住民

８月２日午前９時30分元格致小学校前へ。この日は朝から温度計は33度を指し、到着するや汗、汗、汗…。

そんな中、格致ごみ減量推進会議（以下、格致ごみ減）の当番の方々は、暑さを物ともせず、資源物を持ち込む地域の方々に対応されていました。

小学校の正門前には、使用済てんぷら油、蛍光管、乾電池類（ボタン電池・充電式乾電池も含む）、リユースびん（一升びん・ビールびん）、紙パックの回収ボックスがずらり並んでいます。使用済てんぷら油を、蚊取り線香の缶に入れて持ち込む方や、手持ちの袋からきちんと切り揃えた紙パック数十枚を回収ボックスに入れる方、新聞紙に巻いて蛍光管を持ち込み、紙をはずして回収ボックスに立てる方…。途切れることなく、近所の方が資源物を持ち込まれ、回収拠点として定着していることがわかります。

始まりは使用済てんぷら油の回収活動を重ね、育まれた環境意識

使用済てんぷら油のタンクの注ぎ口に、油カスを受ける金網を使用

「もう120回くらいは回収したかな」と、立ち上げ前の2009（平成21）年から、小学校前など４か所で使用済てんぷら油回収に携わってきた夏原節子前会長。油を入れるタンクの注ぎ口には、油カスよけの金網、タンク下には路面の油汚れを防ぐためのペット用の紙おむつを敷くなど細やかな工夫が…。実績を重ねたからこそのアイデアに納得。

「格致ごみ減は、下京エコまちステーションの職員さんからの声掛けがきっかけで2012（平成24）年４月に立ち上がり、４か所の使用済てんぷら油回収に加え、元格致小学校前での５分別の資源物回収の仕組みが形作られました」と現会長の竹村廣子さんは話します。

さらに、格致まつりや地域の運動会で「資源物」と「段ボール」の分別回収を行う他、地域のイベントである「格致ふれあい広場」では「古着」の回収などにも取り組むなかで、地域全体にごみ減量の意識が育っていったようです。

回収実績はゆるやかに地域に浸透して

資源物回収のお知らせはどのようにされているのでしょう。３年程前までは、地域全体に回覧板を回し、チラシも作り、より多くの人に知らせたいと努めていたそうです。

竹村会長は「近年は元小学校前や町内で厚意を得たお宅の前にポスターを貼らせてもらうだけ」と、元格致小学校を基点にした地域住民の連携をうかがわせる答えが返ってきました。

お手本にしたいほどモデル的な活動を重ねて

ごみ減量活動に熱心な格致ごみ減。吹田市資源リサイクルセンターや大阪あべのハルカスで都心型のバイオガスシステムを視察するなど、施設見学会や学習会を積極的に行い、情報収集にも取り組んできました。「昨年と今年はコロナで実現しなかった」と竹村会長は残念そう。コロナ感染症の収束後は、新企画を実施したいと積極的です。

資源物回収は毎月第一月曜日朝9時30分から10時30分。根強い地域連携力を軸に活動する格致ごみ減の姿が一つのモデルとして、他の地域に広がることを願いたい。

森田知都子（2021年８月２日取材）

新コーナー『わたしのごみ減らし術』

▶茶殻とコーヒーかすで、花が生き生き

日本茶、紅茶などの茶殻やコーヒーかす。捨てないで何かに活用できないかと、ベランダの花壇にスコップで混ぜてみました。毎日すき込んでいると、黒土がサクサクに。茶殻やコーヒーかすがあふれ、虫がわくのでは？と心配でしたが、全くなし。燃やすごみも水分が減り、悪臭や小蝿を防ぐ効果が。実に手軽に、ごみ減量が実現しました。

（中京区　Ｔさん）

アイデア募集中！【〆切 2021 年 12 月 20 日】

必要事項

①応募者氏名★　※記事は匿名掲載なので、応募者情報は掲載されません。
②電話番号★　③メールアドレス★　④住所★
⑤あなたが実践しているごみ減らしのアイデア
⑥その他（ご意見やご質問等何かあれば自由にご記入ください）
※採用時にプレゼントの受け取りを希望の方は必ず★の項目をご記入ください。

応募先
▶メール　gomigen@kyoto-gomigen.jp
▶FAX　075-641-2971
▶お問合せフォーム
右の QR コードを読み取るか、当会議ウェブサイト https://kyoto-gomigen.jp/about/13.html を直接ご入力ください。

ごみ減　検索　で検索できます

植物油インキで印刷しています。

編集・発行／京都市ごみ減量推進会議　普及啓発部会（事務局 公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 ごみ減量課）
〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13 京エコロジーセンター活動支援室内　TEL:075-647-3444/FAX:075-641-2971　E-mail: gomigen@kyoto-gomigen.jp　URL: https://kyoto-gomigen.jp/

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！